

みんなで作ろう あったかい町 ゆざわ

第2期

湯沢町地域福祉活動計画
令和2年度～令和6年度



YUZAWA
TOWN

湯沢町地域福祉活動計画策定委員会
社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会

はじめに

第2期湯沢町地域福祉活動計画策定にあたっては、新潟医療福祉大学の青木茂先生を委員長に15名の委員の皆様による策定委員会を組織していただき、それぞれの立場から活発な意見を頂戴し、その総意として湯沢町の今後5年間の地域福祉活動計画を示していただきました。そして策定過程では①小中学生へのアンケート調査②ボランティアへのワークショップ③5地区での住民座談会④当事者関係団体ヒアリングなど、まさに地域住民主体の計画策定に留意していただきました。誠にありがとうございました。

これからの5年間はますます高齢化が進み、戦後の団塊の世代が後期高齢者となる5年間でもあります。他の自治体と共通の福祉課題や湯沢町特有の福祉課題も増えてくることが想定されますし、当然ながら介護サービスの需要も増加するものと考えられます。湯沢町社会福祉協議会は地域住民の皆様の笑顔が究極の事業目的でありこの地域福祉活動計画をその指針として、地域の期待に応えるよう尽力してまいります。

今（3月13日現在）、新型コロナウイルス感染症が世界的大流行（パンデミック）であるとのWHOの表明があり、社会の混乱や経済の低迷はもとより、わが国でも学校現場や医療現場において様々な深刻な問題が発生している状況にあります。幸いなことに現時点で湯沢町並びに近隣市町村での感染者は確認されていませんが、新潟県の表玄関にあたる立地から感染者との接触が発生する危険性が大であるとの危機感を持ち、関係機関には一層の対策をお願いするものであります。

オリンピックの開催も危惧される昨今ですが一日も早い終息を願うとともに、一人一人が責任をもって感染防止に努めることが肝要であると思います。

令和2年3月

湯沢町社会福祉協議会
会長 佐久間 知良

● 目 次

第1章 ▶ 計画策定にあたって

- 1 地域福祉活動計画はこんな計画 …………… 2
- 2 第2期計画策定の背景 …………… 2
- 3 この計画の主人公はあなた …………… 3
- 4 第2期計画の位置づけ …………… 3
- 5 計画の実施期間 …………… 5
- 6 進捗管理と評価の体制 …………… 5

第2章 ▶ 第1期計画の振り返り・評価

第3章 ▶ 計画が目指すもの

- 1 基本理念 …………… 7
- 2 計画の体系 …………… 8
- 3 基本目標・実施プラン
 - 基本目標1 これからの地域を支える「人」を増やそう …………… 9
 - 基本目標2 みんながつながる「場」をつくろう …………… 13
 - 基本目標3 みんなが支え合える「仕組み」をつくろう …………… 16
 - 基本目標4 みんながつながるために「しらせる工夫」を広げよう… 18

第4章 ▶ 資料

- 1 計画づくりの体制・プロセス …………… 20
- 2 アンケート調査自由記載まとめ・評価調査まとめ …………… 23
- 3 当事者・関係団体ヒアリングまとめ …………… 25
- 4 住民福祉座談会(全地区)まとめ …………… 27
- 5 地域福祉推進座談会まとめ(第1期計画の評価) …………… 29
- 6 策定委員会名簿 …………… 32

1 地域福祉活動計画はこんな計画

「地域福祉」とは、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も誰もがその地域で自分らしくいきいきと暮らせることを目指し、「地域」に視点を置き、地域の人と人とのつながりを大切にし、お互いに助け合う関係やその仕組みを具現化していくことです。

地域福祉活動計画は、自分たちの住む地域の課題を把握し、その課題に対してどのようにしていきたいかを一緒に考え、具体的に活動していくための計画です。

2 第2期計画策定の背景

湯沢町では、平成27年に「湯沢町地域福祉活動計画（以下、「第1期計画」という。）」を策定し、「みんなで作ろう あったかい町 ゆざわ」を基本理念にさまざまな活動を展開してきました。しかし、この間にも少子高齢化や人口減少が進み、地域や家庭の役割の変化やつながりの希薄化、さらには地域活動者の高齢化や減少等、第1期計画から継続して取り組む必要のある課題があります。また、人との関わりを望まなかったり、金銭的な困窮、雇用困難など生活に絡み合う形で課題は複雑化し、社会的に孤立している人たちも多くなります。（生活困窮者の問題、社会的孤立、老老介護、虐待、ごみ屋敷問題等）

町民の生活基盤として大きな役割をしましている町内会活動を中心にさまざまな取り組みが行なわれていますが、若者の町外流出、伝統文化や祭り継承の人手不足、支援が必要な世帯の増加など不安は尽きません。今一度、時代の変化に合った新たな発想も加え、家族や隣近所の在り方や今後の地域づくりについて考える必要があります。

地域福祉をさらに発展的に推進し、かつ新たな課題への対応を図りながら、誰もが「ここで住み続けたい」と思えるような、そして町外に転出した若者が「帰ってきたい」と思えるような地域、湯沢町をみんなで作っていきましょう。

3 この計画の主人公はあなた

この活動計画における主体と対象は、町民はもちろん、町内の商店・企業・学校・各種団体など、湯沢町に住んでいる人や活動している人たちを指します。

少子化・高齢化・人口減少が深刻な問題となっている中で、全ての町民が住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくりには、関わる全ての町民の主体的な参加により進めていくことが大切となります。

4 第2期計画の位置づけ

湯沢町では平成28年3月に「湯沢町総合計画後期基本計画」が策定されています。その計画の基本理念として、「湯沢らしさ」「安心安全」「育つ力」が掲げられていますが、これらを達成していくためには地域力の推進が不可欠であると言えます。

また、基本政策の一つである「安心して自分らしく暮らせる町づくり」はまさに、町民主体の町づくりであり「地域福祉」そのものです。

湯沢町総合計画や湯沢町老人福祉計画、湯沢町ファミリー健康プラン等の関連計画と地域福祉に関する事項について整合性、関連性を持ちながら、町民や地域のさまざまな関係者などと協働し、湯沢町の地域福祉を推進することを目的とした行動計画が「第2期湯沢町地域福祉活動計画」です。



活動計画策定委員会



住民福祉座談会

みんなで進める地域福祉

イメージ

私たちの願い



住み慣れた今の地域で、
誰もが安心して健康で幸せに暮らしたい



そのために、



地域福祉

すべての町民が安心して暮らせるように
町内の団体や関係機関と連携し
きめ細かく支える活動や地域づくり



だから、



地域福祉

誰もが安心して暮らせる町づくりを目指し、地域住民が一緒になって
みんなで考えて、みんなで支え合い、みんなで解決する
`地域の仕組み、をつくろう！

地域で福祉

ご近所でできること、

たとえば…

- ・見守り、声掛け運動
- ・話相手
- ・家事支援
- ・緊急時の対応 などなど

町内会や仲間同士で
できること、

たとえば…

- ・ふれあい交流活動
- ・見守りネットワーク活動
- ・環境美化活動
- ・防犯活動 などなど

自分や家族でできること、

たとえば…

- ・自分自身による努力
- ・家族での話し合い
- ・ボランティア活動・生きがいづくり
- ・健康づくり
- ・人に相談する などなど

学校でできること、

たとえば…

- ・ふれあい交流活動
- ・地域行事への協力
- ・地域でのボランティア活動 などなど

会社や団体でできること、

たとえば…

- ・活動資金支援
- ・情報や技術の提供 などなど



5 計画の実施期間

この計画の実施期間は、令和2年度～令和6年度までの5年間とします。

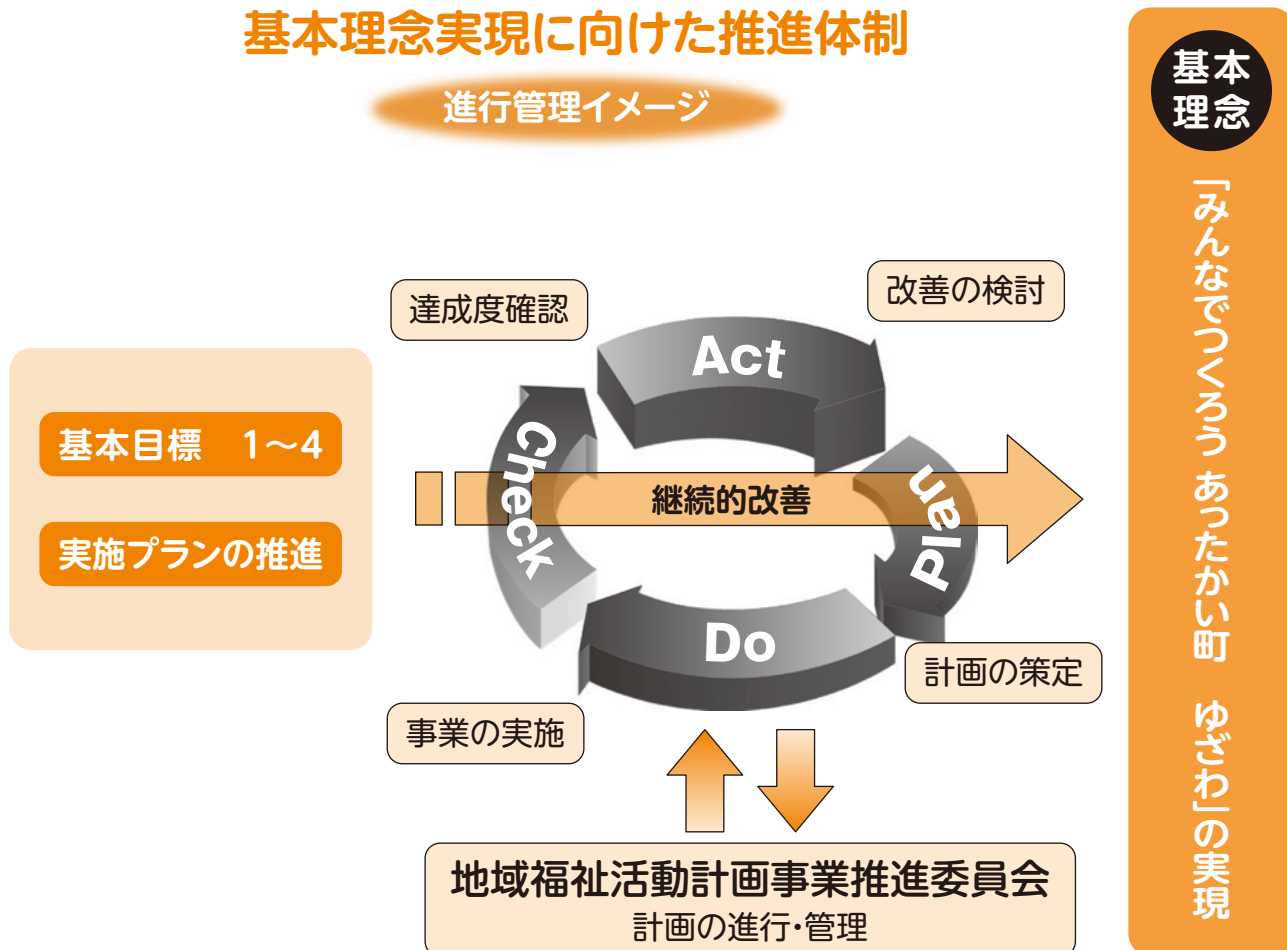
6 進捗管理と評価の体制

計画の実行性を高め、円滑で確実な実施を図っていくには、計画達成度の評価など適切に進行管理する体制が必要です。その為、第1期計画に引き続き、湯沢町地域福祉活動計画事業推進委員会を設置し、計画の適切な進行管理を図ります。

事業推進委員会では、実施プランに対する進捗状況や達成度を定期的に把握、評価を行ないます。また、計画した活動以外にも状況の変化に対応し、具体的な活動推進に取り組めます。

基本理念実現に向けた推進体制

進行管理イメージ



第1期計画は、平成25年度から2カ年を掛けて策定しました。初めて策定する地域福祉における町民の行動計画であったため、丁寧に町民、関係機関より「声」や「思い」を聴かせていただきながら策定した手作りの計画です。基本目標に「人」「場」「仕組み」「健康」「生活」の5つのキーワードを掲げ、町民、社協と目標達成に向けて行動してきました。

計画期間中は事業推進委員会を開催して1年毎に評価を行ない、最終年には、住民座談会やヒアリング等を通じて町民から第1期計画の評価を行ないました。

それぞれの目標達成度で一定の成果は見たものの解決までには至らず、特に全ての共通項である「人」については改めて大きな課題であると評価しています。

第2期計画は、第1期計画に掲げた細かなニーズ（雪や買い物）については、他目標にと包含し、「人」「場」「仕組み」「しらせる工夫」と4つの目標を掲げ、第1期計画の間で継続的に取り組んできた項目を第2期計画へと引き継ぐこととしました。

第1期計画では、さまざまな地域福祉活動が新たに展開されました



下中サロン



石臼サロン



ボッチャ大会



お互いさま検討会



湯沢雪掘隊

1 基本理念

「みんなで作ろう あたたかい町 ゆざわ」

第1期計画（平成27年度～31年度）から、「みんなで作ろう あたたかい町 ゆざわ」を基本理念とし、その実現に向けて地域福祉活動を推進してきました。

家庭や地域社会での孤立化や人間関係の希薄化が進み、これまであったお互いさまの機能が低下してきている中で、「笑顔」「挨拶」「ありがとう」があふれる湯沢町を目指し、人との関わりを大切にしながら心が通い合う町づくりを進めてきました。

今後さらに少子高齢化、孤立化、人口減少が進む中で、町民一人ひとりが地域の一員としてあたたかさを感じられる湯沢町の実現を進めていく必要があります。第2期計画においても、引き続きこの理念を継続して取り組みます。

あたたかい
笑 顔



明るい
挨 拶

心のこもった
あ り が と う

2 計画の体系

第2期湯沢町地域福祉活動計画

基本理念

みんなでつくろう
あったかい町 ゆざわ

基本目標	実施プラン
これからの地域を支える 「人」を増やそう	<ul style="list-style-type: none">① 参加・活躍できる場面をつくろう② みんなで意識を高めよう③ 全世代でふくし教育を進めよう
みんながつながる 「場」をつくろう	<ul style="list-style-type: none">① みんなが集まれる場をつくろう② 気軽に集まれる場を増やそう③ 思い・悩みを話せる場をつくろう
みんなが支え合える 「仕組み」をつくろう	<ul style="list-style-type: none">① 困りごとをみんなで支え合おう② 孤立しない地域にしよう
みんながつながるために 「しらせる工夫」を広げよう	<ul style="list-style-type: none">① みんなに「しらせ」を届けよう② みんなの思いを受け止めよう

3 基本目標・実施プラン

基本目標 ①

これからの地域を支える
「人」を増やそう

湯沢町人口ビジョンでは、2025年65歳以上人口がピークを迎え、出生率の低下・少子化・若者の町外流出により人口減少が続くものとされています。このような状況では、地域福祉活動・地域コミュニティのさらなる減退が懸念されます。

一方、「高齢者が元気・働き者」という声も多く聞かれました。いつまでも元気で過ごすためにも、活躍する場や役割をつくり、これからの地域を支える人づくりを目指します。

実施 プラン

- ① 参加・活躍できる場面をつくろう
- ② みんなで意識を高めよう
- ③ 全世代でふくし教育を進めよう

① 参加・活躍できる場面をつくろう

町民の主体的な参加は、地域福祉活動の推進を始めとした町づくり活動の根幹です。社会活動やボランティア活動、趣味活動など皆さんが活躍できる場面は多くあります。

一人ひとりが持っている力を地域づくりに活かしていきましょう。参加・活躍する場面が増えることで、関わる担い手が増えることにもつながります。

私たち町民ができること

- ・相手のためになる・自分も元気になる活動を見つけ、無理せず参加してみましよう。
- ・積極的に声を掛け、誘い合って参加してみましよう。
- ・ボランティア活動することの楽しさや充実感を家族や周囲に伝えましよう。
- ・活動のPRを積極的に行いましよう。伝わりやすい方法(クチコミ・SNS等)で情報発信しましよう。
- ・特技や趣味を活かす活動、研修会や行事等を活用して、自分の出番を作りましよう。
- ・社会活動に参加し、こころと体の健康増進を図りましよう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→今、活動しているボランティア・団体の活動を強化

- ・すでに活動されているボランティア・団体等の活動を支援します。
- ・ボランティア・活動団体等の活動を強化するため、研修会や情報交換会を企画します。

→新たな人材発掘・育成

- ・退職者やマンションに住んでいる人、若者を対象とした講座を企画し、活動をPRします。
- ・あらゆる世代に活動を伝えられるように発信方法を工夫します。

→社会参加へのコーディネート機能の充実

- ・人材バンク等登録方法を検討し、さまざまな人が社会活動へ参加できるようにコーディネート機能を強化します。
- ・公民館等、登録制の人材バンクを行なっている他機関との情報交換を行ないます。



ボランティア連絡協議会総会・研修会



移動サービス検討会

② みんなで意識を高めよう

地域共生社会の実現には、みんなが役割を持ち支え合いながら自分らしく活躍できる社会をつくる必要があります。これには、地域で起こっていることを自分ごととして捉え、自分たちで何ができるのか主体的に取り組む意識を育てていくことが大切となります。

世代間の考え方の違いや生活スタイルの変化から生じる意識の違いに対しても、みんなで認め、学び考える機会をつくり、意識を高めていきましょう。

私たち町民ができること

- ・ごく当たり前活動ができるようにしていくこと、自分たちでできることをやるという意識を育てましょう。
- ・さまざまな世代、考え方や生活スタイルの異なる人たちと過ごし、話をする機会を作りましょう。
- ・未来を見据え、活動を続けていけるように次代を担う人材を育てていきましょう。
- ・社会参加や地域貢献を行ない、いつまでも健康で過ごせるようにしましょう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→学ぶ場、交流する場をつくる

- ・地区ごとの座談会などを開催し、自分の地域を考える場をつくれます。
- ・町民が地域活動に参加したいと思うような研修会や交流の場を町民・関係団体と一緒に開催します。

→次代を担う若い人の考えや意見を取り入れる場をつくる

- ・地域づくりやボランティア活動等の各委員会や会議等の参加者に若い世代の人を意識して加えます。
- ・既存事業や集まり等に積極的に出向き、若い人の意見を聞き取ります。



住民福祉座談会



地域づくりセミナー

3 全世代でふくし教育を進めよう

これからの地域づくりは大人だけではなく、子どもや若い世代の人にいかに参加・関心を持ってもらうかが重要です。今後の少子高齢化・人口減少を見据え、次世代の人に社会参加をしてもらうことが大切となります。また、学校・家庭・地域・関係機関が連携していくことも大切となります。

私たち町民ができること

- ・挨拶など日頃のお付き合いを積極的に行い、近所や地域のことに関心をもてるようにしましょう。
- ・「ふくし教育」は子どもだけが学ぶものではありません。子どもも大人もみんなが地域や学園でともに過ごし学ぶことが地域づくりにつながります。全世代が共に過ごすことで人を思いやれる心を育てましょう。
- ・子どもの頃から「楽しかった・喜んでもらった」という体験ができるようにしていきます。
- ・若い人やマンションに住んでいる人など、さまざまな人の意見や考えを取り入れていきましょう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→次世代を担う子どもたちが福祉に触れる機会を増やす

- ・ボランティア体験や福祉体験の機会をつくり、活動の意義を感じてもらいます。
- ・学校や地域で取り組む事業や企画の支援を行ないます。また、福祉専門職や当事者講師等のコーディネートを行ないます。

→子どもだけでなく全世代の人が集い学べるふくし教育の推進

- ・既存の資源(学校、家庭、地域、交流センター等)と連携し、多世代が参加できるようにします。
- ・題材を福祉と限らず、さまざまなテーマで全世代参加型の事業を開催します。



中学生福祉講座



手話体験



認知症サポーター養成講座

基本目標 ②

みんながつながる 「場」をつくらう

新たな交流やつながりが生まれるためには、大人や子どもと一緒に活動する場や当事者同士が支え合えるような場づくりが必要です。お互いの理解や共感を深め、人と人とのつながりや信頼関係を深めるさまざまな集いの場づくりを推進し、どこにでも誰にでも居場所がある地域づくりを推進します。

実施 プラン

- ① みんなが集まれる場をつくらう
- ② 気軽に集まれる場を増やそう
- ③ 思い・悩みを話せる場をつくらう

① みんなが集まれる場をつくらう

年齢に関係なく気軽に集まれる場、世代間での交流が出来る場、障がいの有無等にとらわれず様々な人が集まれる場があることが、普段できない色々な人と話ができるきっかけになります。また、生涯学習やスポーツ活動等は社会参加の促進、生活の質の向上や健康増進の効果も期待できます。

私たち町民ができること

- ・年齢に関係なく気軽に参加できる場、世代間での交流ができる場をつくりましょう。
- ・地域の行事や祭りに積極的に参加をしましょう。
- ・世代、障がいの有無等に関係なく、誰もが楽しめるように工夫してみましょう。また、参加しやすいように周知し、誘い合しましょう。

そのために… 社会福祉協議会が取り組むこと

→誰でも集える場・世代間交流の推進

- ・世代の異なる人や障がいの有無、マンション住民等にとらわれず誰でも参加できる場、事業を推進します。
- ・既存の事業や催し等を誰でも参加できるものにし、世代間交流ができるような内容を組み入れます。
- ・障がいのある人もない人も共に楽しめ、誰もが参加しやすい講座や教室等を開催します。



しめ縄づくり



児童クラブと美味しんぼ倶楽部のクッキング

2

気軽に集まれる場を増やそう

今後も高齢者の増加が見込まれ、交流の場が必要と言う声が多く聞かれました。気軽に参加できるようにするには、無理なく身近なところに集まれる場があることが大切です。また、多くの人に参加できるように仲間づくりや明るく楽しい会であるようにしていくこと、それを周囲に伝えていくようにしましょう。

私たち町民ができること

- ・町内サロン活動やけんこつ体操など、身近な場所で行われる集いに積極的に参加しましょう。友達も誘って参加してみましょう。
- ・気軽に集まれる場は、交流や地域のつながりの場となります。お世話する側・される側に分かれるのではなく、みんなで居場所をつくっていきましょう。
- ・空き施設の利用や、既存の行事等があればそれを広げていけないか工夫してみましよう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→サロン活動の推進

- ・人と人がふれあい、交流の場となるよう地域のふれあいサロン活動を推進します。
- ・サロン活動運営者への支援を行ないます。

→サロン活動の立上げ・継続のための側面的支援

- ・町内会への呼び掛けや複数町内での開催など、新規立ち上げ支援を行ないます。
- ・新規立ち上げ、継続のために会場等の確保や他機関等の調整を行ないます。



三俣ひまわりの集い



宮林いきいきサロン

3

思い・悩みを話せる場をつくろう

当事者同士や同じ境遇の人同士で集まり、話すことでつながりや信頼関係を構築することができます。また、出会い、情報共有や意見交換をすることで気持ちが晴れたり、課題解決の糸口が見つかったりすることもあります。困っていても声を上げられない人、様々な障がいや少数派の立場にある人への支援やお互いを認め合える地域をつくりましょう。

私たち町民ができること

- ・同じ経験をして悩みや思いを共有できる人たちが主体的に集まって交流し、気兼ねなく話ができる場をつくりましょう。
- ・情報交換の場や出会いの場があったら積極的に参加しましょう。
- ・仲間や相談できる人をつくり、こころの健康を保つようにしましょう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→当事者組織の活性化・出会いの場づくり

- ・同じ境遇、悩みを持つ者同士がつながり、交流できるように活動を支援します。
- ・組織同士の連携や担当者間の連携を取りながら、さらに発展できるように支援します。

→困っている人、孤立している人の声を拾い、つなげる活動

- ・当事者団体活動へ積極的に参加し、課題や思いを聴き取ります。
- ・既存の集まりや座談会の開催、訪問等を通じ、ニーズを把握します。



ふれあいサロン



介護者交流会

基本目標 ③

みんなが支え合える 「仕組み」をつくろう

複雑多様化する社会や暮らし方の中で、困りごとや生活のしづらさも複雑多様化しています。また、プライバシー意識の高まりにより、何らかの支援を必要としている人がいることに周囲が気付きにくい状況にもあります。このような中で、地域のさまざまな困りごとや生活のしづらさを受け止め、町民同士で解決に向けた検討や取組みを行なうことで、「その人らしく」生活できる地域づくりを推進します。

実施 プラン

- ① 困りごとをみんなで支え合おう
- ② 孤立しない地域にしよう

① 困りごとをみんなで支え合おう

誰でも「支える側」「支えられる側」となります。いざという時に助けてと言える関係づくり、お互いさまの助け合いの意識づくりをしていきましょう。

私たち町民ができること

- ・日頃から地域や近所との関わりを持つようにしましょう。
- ・ちょっとした困りごとや不安を抱えている人たちが安心して過ごせるよう、「支える側・支えられる側」という区別をせずに、お互いさまの意識を高めましょう。
- ・地域の資源・人材を活用しながら地域全体で支えられるようにしていきましょう。
- ・お互いさまの意識を持ち、ゴミ出し等負担にならない程度の助け合い活動を行ってみましょう。
- ・困っているという意見の多い除雪、買い物、移動について助け合えるときは声を掛けてみましょう。

そのために… 社会福祉協議会が取り組むこと

→ お互いさま活動への参加を推進

- ・住民参加型助け合いサービス「湯沢つながり会」をもとにした地域の支え合いの体制づくりを行ないます。
- ・町民がお互いさま活動に参加したいと思うような研修会や交流の場を町民と一緒につくります。また、ボランティアポイントや地域通貨など動機づけとなるものを検討します。
- ・地域の実情やニーズによって多様なサービスや活動を町民とともに開発し、拡充を図ります。

→ 地域課題解決を町民と共に取り組む

- ・各地区、各お宅への訪問支援を強化します。必要に応じ、福祉課題や生活課題を抱える世帯に対し、継続的な支援を行ないます。
- ・研修会や意見交換会等を開催し、個別・地域課題解決に向けた話し合いを行ないます。



つながり交流会



移動サービス検討会

② 孤立しない地域にしよう

子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず、全ての町民が安心して暮らしていくために、地域の中で顔が見える関係、挨拶を交わす関係であることが大切です。また、地域から孤立している人や世帯には、寄り添う人や気に掛けてくれる人がいるということが安堵感に繋がります。普段から同じ地域で暮らす人への意識を持ち、「知る」「気づく」の地域づくりを進めましょう。

私たち町民ができること

- ・人と人との関係づくりの一步である挨拶を誰にでも積極的に行いましょう。
- ・日々の生活の中で、子どもから大人まで誰でも気軽に関わり、互いに気遣うようにしましょう。
- ・近所の人の様子に変化がないか気に掛けましょう。気になる人がいたら関係機関に相談してみましょう。
- ・災害時に、地域の日頃の関係性が発揮されます。それぞれの世帯状況や役割を確認し、互いに見守り合えるようにしましょう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→町民個別の生活課題解決に町民とともに取り組む

- ・個別の課題に対して、住民活動と専門職の活動が一体的に地域で展開されるようにつながりをつくる役割を担います。
- ・個別の課題に対して、解決を町民と協働して取り組み、「知る」「気づく」を感じてもらい地域における支え合いの意識を高めます。

→地域で見守る体制・連携の強化

- ・既存サービス(見守りネット、配食サービス事業、ふれあいいいききサロン等)を活用し、小地域を単位とした見守り体制を強化します。また、関係機関や町民とスムーズに連携できるようにつなぎ役を担います。
- ・孤立しがちな人等の見守り活動を続けていくこと、町民や関係機関や企業等が連携して取り組めるような仕組みづくりを検討します。



災害時訓練



地域資源
ワークショップ



配食サービス

基本目標 ④

みんながつながるために
「しらせる工夫」を
広げよう

湯沢町には町や社協の広報誌、関係機関の情報誌や各種ホームページ等で多くの情報が流れてきている中で、それらが適切に伝わっていない、選択されていない現状があります。さまざまな情報が有効活用されるように、さまざまな方法で分かりやすい情報の発信を行なう必要があります。また、声なき声や思いをキャッチし受け止めることも、誰もが安心して暮らせる町づくりに必要となります。

実施 プラン

- ① みんなに「しらせ」を届けよう
- ② みんなの思いを受け止めよう

① みんなに「しらせ」を届けよう

情報はとても大切なものであり、今の時代にあった受信・発信がしやすい環境づくりが大切です。必要な情報が必要な人に届くように、身近なしらせ、必要なしらせがみんなに届くように工夫していきましょう。

私たち町民ができること

- ・自分から積極的に情報を得るようにしましょう。広報誌や回覧板を良く見るようにしましょう。
- ・情報誌やチラシ、ホームページやSNSなど、さまざまな方法で発信されています。自分が得やすい方法で、積極的に情報を得るようにしましょう。
- ・役立つ情報を他の人にも広く伝えたいときは、大勢が集まる会などで話題に出し、みんなで共有しましょう。

そのために…

社会福祉協議会が取り組むこと

→効果的・効率的に発信し、多くの人に情報を伝える

- ・社協ゆざわや広報ゆざわを活用しての情報発信はもちろん、ホームページやSNS等も活用し、あらゆる世代に即時に情報が届くようにします。
- ・分かりやすく伝わりやすい、目にとまりやすくなるようさまざまな発信方法で伝えます。(動画、写真を入れる等)
- ・現在行われている事業や活動、地域の実情の見せる化、見える化に努めます。

② みんなの思いを受け止めよう

病気や障がいなどのために悩みや困りごとを一人で抱えてしまっている人や、どこにも相談できずにいる人が身近にいるはずです。思いを伝えにくい人たちに気付いたり、相談しやすい関係をつくったりしていきましょう。また、少数の意見や思いであっても、そのことについてみんなで考えられる地域づくりを進めましょう。

私たち町民ができること

- ・「人に迷惑を掛けたくない」と思いがちですが、困ったときには相談してみましよう。
- ・どこにも相談できずにいる人が身近にいるかもしれません。気軽に相談しやすい環境や関係をつくっていきましょう。
- ・相談窓口を知っていたら教えてあげましよう。
- ・町民同士の交流や見守りを行うことで、気軽に相談できる雰囲気を作りましよう。
- ・ひとりの意見や相談であってもきちんと聴き、みんなで考えていきましょう。

そのために… 社会福祉協議会が取り組むこと

→相談機能の充実と連携強化

- ・「高齢」「障がい」等の分野ごとではなく、さまざまな部署と協力し連携を取りながら相談支援を行ないます。また、支援がバラバラではなく一体的に行えるようにネットワークを構築します。
- ・さまざまな相談窓口があるため相談者を適切な窓口へつなぎます。
- ・積極的に地域へ出掛け、訪問支援を行ないます。
- ・町民が相談しやすい環境をつくります。(メールで相談ができるようにする等)

→個別の生活課題を受け止める

- ・福祉、介護、就労、権利擁護等、複雑多岐にわたる生活課題に対して一体的に相談支援を行ないます。誰もがいつまでも自分らしく暮らせるよう本人の意思を尊重した支援を行ないます。
- ・表面化しにくい課題や障がいへの理解や啓発のため、研修会等の学ぶ機会をつくります。

1 計画づくりの体制・プロセス

1 策定委員会

幅広く町民および関係者の意見や要望を取り入れながら湯沢町地域福祉活動計画を策定するため、社協会長が15名の策定委員を委嘱し設置しました。活動計画策定に関わる全体事項の協議・決定をした上で策定しました。

2 計画づくりのプロセス

(1) 第1期計画の評価・ニーズ把握

① アンケート調査

- ①-1 小中学生にアンケート調査を実施し、地域福祉活動やボランティア活動へどのような思いがあるのか把握しました。
- ①-2 民生委員児童委員へアンケート調査を実施し、日頃地域の中で感じている課題や気になる相談等について把握しました。
- ①-3 専門職へのアンケート調査
町民を対象として活動展開している福祉・保健の専門職に対し、日頃の業務を通じて感じている地域課題や現状を把握しました。

② 地域活動実践者参加による地域福祉推進座談会

ボランティア連絡協議会と協力し、現在ボランティア活動をされている方を対象にワークショップを行ない、第1期活動計画の評価を行ないました。

③住民福祉座談会

同じ生活圏域で暮らす町民同士が地域の将来像などを思い描き、地域の生活ニーズや福祉課題に気づき、共有を図る場として開催し、生の声を伺い、質的な把握を行いました。

座談会スケジュール

地区名	参加者数	日 時
神立地区	9名	日時：8月20日(火) 19時～20時30分 会場：神立中央集会場
土樽地区	23名	日時：8月22日(木) 19時～20時30分 会場：農山村開発総合センター
三国地区	6名	日時：8月27日(火) 19時～20時30分 会場：湯沢町公民館浅貝分館
湯沢地区	17名	日時：8月28日(水) 19時～20時30分 会場：湯沢町公民館
三俣地区	9名	日時：9月3日(火) 19時～20時30分 会場：三俣地区館

④当事者・関係団体ヒアリング

実際に地域で活躍されている住民当事者団体や世代別懇談会において、活動状況や今後の方向性などについて把握しました。また湯沢町の好きなところや課題等についても確認しました。

実施団体・懇談会 **6回**

(2) 策定委員会

開催回数	日 時	主な検討内容
第1回	令和元年5月27日	<ul style="list-style-type: none">・委嘱状の交付・策定委員自己紹介・委員長、副委員長の選出・年間のスケジュール・第1期計画の評価とニーズ調査について
第2回	令和2年1月31日	<ul style="list-style-type: none">・ニーズ把握・評価報告について・計画構成案について・計画体系案について・基本理念について・その他
第3回	令和2年3月5日	<ul style="list-style-type: none">・第2期計画素案の検討・その他



策定委員会

2 アンケート調査 自由記載のまとめ・分析

小中学生がボランティア活動をしてみての感想

- ・点字ボランティアですごく良い体験ができました。
- ・障がいがあってもなくても皆で楽しめるものがあるといい。
- ・ボランティア活動を通じて、人との交流を学んだ。
- ・人のためにできること、自分ができるところを見つけて行動していきたい。
- ・笑顔で活動することの大切さを学んだ。
- ・心のあたたかい人たちに会うことができ、うれしかったです。
- ・「頑張ってるね」と言ってくれて、ボランティアってステキだなと思いました。
- ・初めて体験して色々なことがわかり、私たちが役立てて良かったです。
- ・ボランティア体験をしてあたたかい気持ちになった。
- ・今後も機会があればボランティア活動をしたいと思う。
- ・元気にあいさつができた。相手も答えてくれてうれしかった。
- ・ボランティアをして良かったことは、色んな人たちと知り合えたこと。
- ・町を活気づけられる活動や達成感を感じられる活動してみたい。
- ・たくさんの人に「ありがとう」と言ってもらえてうれしかった。



ボランティア体験

民生委員児童委員アンケートのまとめ

❗ 地域の中で課題に感じることは

- ・出歩いている人が少ない。
- ・地域住民が地区担当の民生委員を知らない。
- ・アパートやマンションに住んでいる人の情報把握が困難で、特に災害支援を必要とする人の有無や安否の確認体制が不十分。
- ・店がなく、買い物に困っている人が多い。(ショッピングセンターの送迎を心待ちにしている人がいる)
- ・町内会の活動が定例行事消化が中心となり、人と人とのつながりが希薄化している。

❗ 気になる相談や増えている相談は

- ・世間体を心配して、福祉制度を利用しない人がいる。
- ・相談自体がない、受けることがほとんどない。
- ・ニートやひきこもりについては本人、家族からも相談がない。
- ・ゴミだし、草刈等の処理、買い物への移動と運搬が大変。
- ・高齢者の一人暮らしで冬期が心配。
- ・地域柄、商店から遠く足も悪く買い物が困難。
- ・民生委員児童委員の認知度は低い。直接相談されることはほとんどない。

❗ 地域の高齢者に対してどんな不安や心配があるか

- ・できるだけ人に迷惑をかけないようにとの思いが強く、支援や相談を受けたがらない高齢者が多い。我慢しすぎていないか心配。
- ・接点がないのでわからない。
- ・亡くなった後のこと、お墓のことなどの心配をされている。
- ・一人暮らし高齢者の体力の衰えを感じる。今後の生活はどうかと考えさせられる。

❗ 高齢者の生活で困っていること

- ・自立している高齢者が多い。
- ・同居家族がいないと、どうなるか心配という声が多い。
- ・同居家族が年を重ねると途端に大変な家族が増えると思う。
- ・福祉支援等の手続き書類がきても一人ではできない。
- ・買い物に困っている人は多い。

❗ ご意見等自由記載

- ・困りごとがあれば出来る限り対応したいと思う。
- ・困っても自分で何とかしようと思う人が多い。近くの人にもっと声を上げてほしい。
- ・声を掛けると困ったことより元気なところを見せてくれる人が多い。
- ・若者なくして町の活性化はないと思う。
- ・福祉の情報が様々な部門で情報管理と共有できる体制が必要。
- ・高齢者が多くなるし、若者定住化も難しいと感じる。
- ・これからはますます高齢化してくる。地域の助け合いを大切にして、住み慣れた地域で安心して過ごせるよう気配りをしていきたい。
- ・若者や子育て世代が住み良い町になってほしい。

3 当事者・関係団体ヒアリング調査まとめ

調査団体・懇談会

ふれあい懇談会(高齢者世代・マンション住民・子育て世代)
身体障害者協会、視覚障害者当事者、オールユースゆざわ

湯沢町の好きなところ、強みは？

キーワード	参加者の声
観光の町	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー場もあり、観光の町でいい町だと思う ・知名度がある ・温泉が最高 ・雪をきっかけに移り住んだ ・フジロックが開催される ・インフラがいい
生活しやすい町	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪体制が良い ・良いと思う ・今のところは住みやすい町 ・湯沢町を誇りに思う ・立地がいい
多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション住民は多様性に富んでいる ・関東の影響を受けやすく、新しいものが入ってくる ・色々な人が住んでいる、活性化する ・マンションの人が頑張っている
豊かな自然	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か ・空気がきれい ・おいしい米、酒がある ・山菜取りができる、山菜取りが元気の秘訣 ・山が美しい(桜、紅葉、杉林など) ・雲がきれい ・田んぼがきれい
人柄	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いが多い ・人の心が温かい ・外部者に対してオープンな人が多い ・みんなやさしい ・ウェルカムな考え
地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でつながっている ・隣り近所関係がある ・町内会や消防団など地縁関係がある ・地域の人がだいたいわかる ・地域の集まりがある
活気・元気がある	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者が多い町 ・若い人の移住者が増えている ・若い人からアイデアを出している

生活する上での困りごとは？

キーワード	参加者の声
災害時対応	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応がどこまでできているのか心配 (車椅子の方の対応等) ・避難所に行けない人がいる
交通が不便	<ul style="list-style-type: none"> ・車がないと不便な町 ・町民にあてにされる交通システムが必要 ・高齢者と障害者は行き先が違うので移送方法の検討 ・買い物してもらうシステムが必要
将来の心配	<ul style="list-style-type: none"> ・終活を考える必要がある ・認知症になったらどうしよう ・跡継ぎがない
子育てしにくい環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊ぶ場所がない ・子育て用品が揃わない ・公園が多くの人が集まれるようになれば良い ・子育てで困った時に相談にのってもらいたい ・病院が少ない、特に小児科がない
つながりの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人とマンション住民との関わりが薄い ・地域とのつながりがない人は全くない ・地元の会に入らないと地域の良いところはわからない
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が伝わりにくい ・SNS活用して若者へ情報発信 ・アパートへは回覧板がこない ・窓口が一方向的で説明が足りない ・制度や資源があってもわからない ・子どもがいないと情報が入らない
買い物が不便	<ul style="list-style-type: none"> ・店が近くになく不便 ・買い物難民
若者定住	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の働く場がない ・都会に出ると帰ってこない ・若い人たちの集まる機会がない

4

住民福祉座談会(全地区)のまとめ

テーマ①

地域のこころ

キーワード	参加者の声
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・緑が多い ・山の景色がよい ・山や川が美しい ・魚野川の桜並木がきれい ・水や米、酒がおいしい ・四季がはっきりしてる
山の恵み	<ul style="list-style-type: none"> ・山菜が多くとれる
祭り・地区行事	<ul style="list-style-type: none"> ・町民活動(かまくら、稚児行列等)に理解がある ・伝統行事が残っている(盆踊り、鳥追い等)
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉がある ・共同浴場が近くにある ・スキー場が多い、近い ・ウインタースポーツがやりやすい
人	<ul style="list-style-type: none"> ・人が親切 ・お互い様の心がある ・隣近所を知っている ・近所付き合いがある ・近所の人たちが親切 ・すぐに仲良くなれる ・近隣が知り合いで安心 ・挨拶をすると返事がある ・住民が集まる機会がある ・困っているときに助け合う ・町内でのコミュニケーションが多い ・移住者の受け入れが大変良い ・マンション住民もボランティア等に参加してくれる ・元気な高齢者が大勢いて、活躍している
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の駅がある ・高速道路のインターがある ・道路が広い ・駅が近い ・温泉街が近い
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・町が健康づくりに積極的に取り組んでいる ・自然災害が少ない
買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・物価が高い ・店が少ない ・商店が近くになく買い物に不自由(特に高齢者)
人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多い ・子供が少なく、人口が減っている
高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者増に対する対策が未着手 ・高齢者の除雪、ゴミ捨て等が困難 ・高齢者の一人暮らしで話し相手がない ・高齢者のみの世帯が増えている
交通が不便	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数が少ない ・車の運転ができないと行動しにくい
電波	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオが入りづらい
動物の被害	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種の獣が増えて農作物に被害がある ・道路に犬の糞がある ・近所に猫が多い
雪の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪の負担が大きい ・除雪費用が高額 ・消雪設備が不十分
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・車で入ってきて自然を荒らされる ・放射能汚染により山菜が収穫できない
人	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚しない、できない人が増えている ・近隣者に対しあまり興味を示さない ・マンション住民との交流がない ・アパート等の住民の把握が容易でない ・マナー低下(核家族で親がマナーを教えていないため) ・相互協力で道路等の除雪を行わなくなった(自己中心的)
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持った方が働く所や通う施設が少ない ・皮膚科、耳鼻科など専門の病院がない ・町の電気が暗い ・公園など子どもが遊ぶ施設が少ない ・共同浴場が遠い
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の仕事が少ない ・町の中心地でも人通りが少ない ・駅通りがシャッター通りになっている
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・病児保育がない ・保育園が平日のみしか利用できない ・働きながらの育児が難しい ・学童保育が十分でない



神立地区住民福祉座談会



三俣地区住民福祉座談会

テーマ②

生活の課題や困り事

テーマ③

私たちができること 町民として

キーワード	参加者の声
地域の 支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする ・各々が意識を変えて親切にする ・譲り合いの精神で互いに協力し合う ・高齢者の除雪、草刈り等の手伝い ・高齢者世帯に声をかける(状況を把握) ・若い親に声をかける(がんばっているね、困りごとはない?等) ・隣近所で声をかけあう ・高齢者宅の屋根、玄関の除雪を手伝う
地域の 交流の場	<ul style="list-style-type: none"> ・食事会、飲み会等、一同に集う場所をもうける ・町内会の活性化を図る ・地区の会館などでお茶のみ会を開催する ・シニアの計画と子供会の共通の話題をみつける
買い物支援	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に近所の人を連れて行く ・町内ごとに訪問日を決め、買い物用の車両を用意する
ボランティア への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなができるときにできるボランティアを無理なく楽しく ・少し安く有償ボランティアを集め除雪を行う
マンション とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション住人とのコミュニケーションの場を設けて互いによいところを 学び合う
環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会での河川掃除や美化活動
マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・動物を飼うマナーを守る、声を掛け合うようにする
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産野菜を買って農家を応援する ・地産地消の拡大を

テーマ④

私たちができること 行政・社協・関係機関

買い物支援	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物リスト提供による買い物支援
福祉バスの 利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスが周知、増便 ・施設への送迎方法を教えてほしい
ボランティア 活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動団体、有償ボランティアのことをみんなに十分知らせて広げる ・小中高生のうちにボランティア体験をする ・有償ボラ「つながり隊」の充実
町づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・町づくりの基盤整備 ・歩行者にやさしい道路の整備
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が気軽に集まれる場所の提供 ・柔軟に対応できる体制づくり
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育で年輩者が昔のしきたりを教える ・学校、道徳で教育を行いマナーを教える ・自然との共存、共栄を教育に取り入れて子供に教える
地域活性化 計画	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開催する ・交流できる場を作る ・マンションの人とも交流できるイベントの開催 ・企業誘致 ・遊休地の利用
情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の情報をわかりやすく開示するようにする ・湯沢学園についての説明が不足している
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオの大きなアンテナを立ててもらう ・「元気なうちには何か一つは人の為」という気風を育てる

5 地域福祉推進座談会のまとめ(第1期計画の評価)

テーマ	キーワード	参加者の声
課題や できそうなこと	ボランティア意欲教育	・今はボランティアしないことが当たり前の湯沢 それを変えたい
	探し方	・ボランティアをしたくても探し方がわからない人がいる ・求人活動が出来ない
	参加のための交通手段	・ボランティアしたくても移動が大変 ・運転ができないとボランティア活動もできない
	若者の参加	・新しい人、特に若い人に参加してもらおうこと ・若い世代の方々への理解が難しい ・弁当作りの人たちが多くなってくれば良い ・若者の参加
	情報発信	・活動内容が知られていない ・知らせたいけど交流がない、少ない ・多くの人に知られていない ・活動そのものを知っている人が少ないように感じる
できそうなこと	その他	・何か楽しむことが欲しい ・声を掛け、皆に理解してもらおうことが難しい ・地域の高齢者たちとの交流、なかなか出来ない ・毎年退会する人がいるが、強制でないので止められない
	情報共有	・グループ内での情報共有(LINE、SNS活用)
	行事・集まりへの参加	・町の行事へ積極的に参加する ・地域の集まりに前向きに参加し活動を話す ・色々な団体と情報交換をする ・研修会などへ積極的に参加する ・月1回の奉仕活動、湯沢学園、あさひばらを継続する
	活動アピール	・自主活動(赤ちゃんすくすくフェア)などでママさん達にアピールしている ・仲間集めの為に積極的に声掛ける ・地域サロンで減塩の話をしている ・広報にCDの応募を出している ・高齢者施設での楽器演奏などを行なっている ・自分より少しでも若い人を誘おうと考えている
自分たちで できそうなこと	マンションの方と	・マンション居住者との交流ができている ・ピンポンの会 ・趣味の会 ・美味しんぼ倶楽部 ・山の会 ・ウォークの会
	身近な人へ伝える	・隣り近所や身近な人に声を掛け仲間を増やす ・他のボランティアグループの人に自分たちの活動を伝える
	交通手段	・車の運転や車がない人たちに参加してもらえるように交通手段を考える ・町から車など出してくれれば少しは人がくるかも
	マンションの方へ伝える	・マンション住人の老人クラブへの参加を呼び掛ける
	情報発信	・活動内容を知らせる方法を色々考えて増やすようにする ・情報の拡散(HP、SNS活用) ・声掛け ・一緒に誘って参加する
課題や できそうなこと	受ける側の声を発信	・ボランティアで支援を受けている人の声を紹介する
	子どもたちのボランティア	・子ども達にも町のボランティアを体験してもらおう機会を作る
	もっと参加する	・さらに行事に参加して活動する
	制約の発生	・地区のお茶会をしたいが働いている人がいたり、私達くらいになると介護で留守にできない ・参加者に男性も入ってもらいたい ・活動の偏り ・色々な条件の中での活動の活かし方
	交通手段	・足がない人の活動、参加が難しい ・交通の便が悪くて参加できない ・活動場所がない ・高齢者は足が弱いので各地区に必要 ・現在、民家を借り上げて実施しているので、会的に支援が必要
課題や できそうなこと	情報	・マンションに住んでいる方との交流(どんな人が住んでいるのかわからない) ・マンションによっては自治会に入れず、町の情報が入らない部分がある ・町民(地元の方々)の参加を望みたい ・マンションによっては「社協ゆざわ」「公報」等が届いていないかも
	施設会場	・マンションの施設を有効活用 ・グループの活動品の整理するが狭くなって使いやすくていけない
	お金	・母子家庭の子どもの教育についてお金の関係で学童に入れない
	声掛け・呼び掛け	・老人クラブに入っているが、年々会員数が少なくなっているため隣の知り合いに声を掛けています ・老人クラブへの勧誘をして仲間を増やしている ・マンション内で参加の呼び掛け ・マンション住民と交流を積極的に行なう ・「社協ゆざわ」で募集を呼び掛けている ・こちらから声掛け、誘う ・少子化で子どもの姿が少ないが見かけると声を掛けて関心を増やしている
できそうなこと	訪問	・一人暮らしの家に伺った時に新聞、宅急便、郵便物が貯まった時の安否確認 ・一人暮らしの家の訪問
	幅広い活動	・高齢者施設での活動をしている ・活動の場を増やした ・ブックスタートや検診での読み聞かせ ・デイサービスでの読み聞かせ ・湯沢学園での読み聞かせ ・グループ内での勉強会
	仲間・充実感	・美味しんぼ倶楽部は明るく楽しい会だと思ふ ・まとまっている
	自分たちで できそうなこと	情報発信
仲間づくり	・ボランティアの大切さを話す機会を作る ・ボランティアの楽しさを伝える ・楽しい企画をする ・自分から積極的に声を掛ける	

基本目標①

ふくしを支える人づくり

基本目標②

ふれあい・つながる場づくり

テーマ	キーワード	参加者の声
課題や わがまちづくり	場がない	・週1で高齢者の集まる場があったのに送迎バスの都合でその会がなくなった ・サロンみたいな高齢者が集まるグループがない ・サロンなど手伝ってくれる人がいない ・農作業を手伝える仕組みがほしい ・気軽に参加できるコミュニケーションの場が少ないと思う ・お隣やご近所の高齢者との交流が少ない(町内会の問題か)
	情報	・周知活動不足で、担い手が少ない ・災害緊急時の連絡 ・困っている人の情報が得られない ・状況がわからないから孤立
	子ども	・保育園、学校が統合され、近所で通学等の子どもの声がしなくなった ・小中学校の不登校の子どもはどのくらいいるのだろう その理由は何か ・クラブ活動ボランティアについて気になった(6年生の不登校児) ・若い(40代)の一人暮らしの男性が孤立している(本人は困っていないので手出しできない)
	移動手段	・車に乗れなくなった時、安く移動したい
	担い手不足	・つながり隊になる人がいない(認知不足) ・民生委員がいない地域があると知って問題だと思った ・老人クラブへの参加者が年々減少している(活性化しない)
	施設不足	・町内の高齢者福祉施設の入所希望者が多く、他県に行く人が多い
課題や わがまちづくり	ちょっとした お手伝い	・自ら進んで買い物支援を行なう ・ゴミだし等簡単なお手伝いをする ・畑仕事を手伝いながら様子を見る ・時々料理を届け戸が開いているか気に掛ける ・高齢者やご近所の高齢者の歩行困難の方のゴミだしを時々している ・引越してきた人に除雪や草刈りを手伝っている ・町内の60歳代の人が入院した一人暮らしの人の家の花の水やりをした ・特定のマンションを数棟選びだし、管理組合や自治会との交流を図り担い手を発掘する ・マンションにお住まいの方はさまざまな資格や特技を持っている
	挨拶・声掛け	・散歩をしながら一人暮らしの方へ声掛け ・声掛けや見守りを行なっている ・畑の野菜のおすそ分け ・隣りの人が1~2日見えなかったら声掛ける ・弁当の配達をしながら見守りを行なっている ・庭仕事や洗濯物干したりしてる時に誰でも挨拶する
	グループ・ 場がある	・老人クラブがある(各地区) ・年寄のカラオケグループがある ・近所の人たちとたまに集まり、お茶会をしている ・お茶のみ会を誘い続ける ・高齢者宅でお茶のみが毎日のように行われていて話が出る ・親戚付き合いや町内の付き合いはまだ残っていると思う ・美味しんぼ倶楽部で男性の友人づくりをしている ・朝の「山の湯」で世間話をしながら情報交換している
自分たちで できそうなこと	誘う	・町内行事への参加を呼び掛ける ・お茶飲み会に誘い続ける ・高齢者世帯の方は親睦会などにも遠慮しているので誘う

課題や わがまちづくり	時間がない	・運動をしたいと思うがなかなか時間が作れない ・車に頼ってしまう ・運動が大切なのはわかっているがなかなかできない ・働き盛りの年代が運動できない
	お酒	・お酒止められない ・休肝日がなかなか作れない ・適量ならいいよね
	食・塩分	・残すのがもったいなくて食べてしまう ・料理で減塩ができない ・腹いっぱい食べてしまう
	地域で交流ない	・40.50歳代の人でひきこもりの人が結構いる ・友人がいない ・集まりに出掛けられていない ・声を掛けてくれる人がいない ・地域の子供達に会わない
	家庭内孤立	・家族で食卓を囲んでいる? ・家族間でも思いやりができていない ・孤食の人が多くなっている
課題や わがまちづくり	食事内容	・薄味を心懸けている ・家族の協力が必要(味がしっかりしていないと不満) ・2人で料理をしていると会話が弾む ・男だけ家事を手伝うようにしている
	食支援活動	・食推として健康診断の時に減塩について話している。実際に減塩している人が多くなった ・町内のサロンで食推として講話している
	運動	・気が向いた時だけジョギングしたり、ウォーキングしている ・時間を決めて歩いている ・ゴルフで歩く ・プールやけんこつ体操等に参加している
	趣味	・山菜採りに出掛けると気分が良い ・碁や将棋に行くために歩く ・脳トレ参加 ・山菜を調理して人に配る ・民謡やコーラス、旅行など趣味活動していることが運動につながる
	畑	・花植えをしている ・畑楽しみ、自給自足
	ボランティア活動	・忙しい中でもボランティアをしている
	お茶のみ・会話	・町内のお茶のみ会に参加している ・近所でお茶のみしている ・妻の友達 came とき、会話に付き合っている ・地域での新年会やスポーツ大会などに参加すると、その会話で町内の人のことを心配、相談している
自分たちで できそうなこと	時間を作る	・意識して運動する時間を作る ・目標を持って運動する ・いきいきサロンで習った運動を自宅でもやってみる
	適量	・飲酒量を少なくする ・休肝日を作る ・腹八分目を心掛ける ・塩分量を少なくする
	生活リズム	・生活のリズムを作って、運動を取り入れる
	仲間を誘う	・運動も一人でしないで人を誘う ・友達をボランティアに誘う(楽しいと伝える) ・友人を誘えば実行するようになる
	無理せずできることから	・椅子に座ってもできる貯筋運動を行なう ・生活の中で意識して動く(家事や雑用も)
	活用する	・ユースポやファミ健などを活用する、伝える、誘う友人を誘えば実行するようになる
目標を立てる	・目標を立てることで始められるし、続けられる	

テーマ	キーワード	参加者の声
課題や わがまちを よくなること	町の美化	<ul style="list-style-type: none"> ・犬の糞が落ちている ・花植えはするけど水やりができていない ・町内に美化できるベースがない ・家の前の川がゴミ多い
	買い物支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があるので車がないと何にもできない ・高齢者が買い物に行きづらい ・近くに商店なし ・買い物する店が少ない ・湯沢では品物が少ないので隣町に行く ・重いものが持てないし、天気が悪いと買い物が大変 ・家電などは隣町へ行く
	雪の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根雪の処理が大変 ・町道にも処理した雪が出ている ・朝の除雪で水がでない ・消雪水の利用争い ・共用部分の除雪ができていない
	災害への意識	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな災害があったときは意識するが、時間経過すると意識低下する ・旅館なので真剣に考える必要がある
	隣近所希薄	<ul style="list-style-type: none"> ・隣り近所の付き合いが少ない ・助けを求めたい人がいない
	情報周知	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する人は支援を受けている。制度を知らない人が多いと思う ・家にいるだけでは情報が入らない
やっつけたい 課題や わがまちを よくなること	きれいな町づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・湯沢町内、花の配布ができています ・清潔の家にゴミを出している ・ボランティアで湯沢学園花壇の草取り、あさひばらの草取り ・登校ボランティアで子どもへの声掛けを行なっている ・草取り協力している ・川のゴミを拾っている ・神社の草刈などできれいにしている ・日頃の自宅、近所のゴミ拾い、清掃を行なっている ・老人会が学園の美化活動をしている
	雪の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ収集場所の除雪 ・隣り近所で助け合って除雪している(タイヤショベルを利用) ・除雪は近所2件の家も一緒に行なう ・国道17号線の除雪はきれいで完璧 ・今のところ自力で買い物、雪堀は家族がやってくれる
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会で消火栓の使い方などを訓練している
	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月挨拶運動をしている ・高齢者への声掛けを行なっている
	助け合い	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の高齢者の食育 ・週2回群馬から移動販売がきている ・向こう三軒両隣の付き合いをしている(特に災害時に助け合いができています) ・普段助けてもらう分、自分のできるボランティアを行なっている
自分たちで できそうなこと	きれいな街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地に花などを植える ・老人クラブに入り学園の花植えや草取りを手伝う ・プランターを並べて花植えを行なう、声を掛ける
	近所の助け合い	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路での子どもの見守り ・道路脇の空き地で腰を掛けられる椅子など設置して休憩所を創出 ・高齢者に対しての茶飲み相談(少人数での) ・日頃からの向こう三軒両隣の付き合い
	見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達への見守り、声掛け ・通学路にて子どもの見守り
	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・見知らぬ人にも明るい挨拶 ・マンションの方にも元気に挨拶する
	世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ポッチャを大人から子どもまで広める ・子どもから大人まで誰もが楽しめるものを企画したい
	周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の意義をPRする



地域福祉推進座談会フォーラム

6 第2期湯沢町地域福祉活動計画策定委員

	氏名	所属	備考
1	青木 茂	新潟医療福祉大学	委員長
2	駒形 虎次郎	事業推進委員	副委員長
3	小熊 孝章	事業推進委員	
4	小野塚美代子	事業推進委員	
5	田村 雅和	事業推進委員	
6	南雲 和彦	事業推進委員	
7	南雲 礼子	事業推進委員	
8	駒形 理英	湯沢小学校	
9	大津 孝一	湯沢町身体障害者協会	
10	多田 康之	住民代表 (マンションにお住まいの方)	
11	高橋 幸子	湯沢町老人クラブ連合会	
12	井熊 雪子	民生委員児童委員	
13	関 秋光	住民代表(三俣地区)	
14	伊藤 綾	ALL YOUTH YUZAWA	
15	鈴木 かおり	ALL YOUTH YUZAWA	

順不同・敬称略

計画策定を振り返って

この度、第2期湯沢町地域福祉活動計画が策定され、こうしてこの計画書が皆様のお手元にお届けできたことに策定委員長として安堵感と達成感に浸っております。

「平成」から「令和」に新たに元号が変わった5月に第1回目の策定委員会を開き、この後住民福祉座談会、関係団体等へのヒアリング調査、小中学生・民生委員児童委員の皆様へのアンケート調査などの方法により、「みんなでつくろう あったかい町 ゆざわ」の実現のために町民の皆様からさまざまなご意見をいただきました。これらご意見を一つでも多く本計画に反映させるべく委員会では、町民代表の策定委員の皆様と共に、お互いの立場を尊重しながら活発に意見を交わし、検討を進めてまいりました。

計画は、計画書を策定することが目的・ゴールではなく、一連の計画策定過程から町の良いところ、不足しているところを見つめなおし、行政・社協・町民とそれぞれの役割を明確にしてそれぞれができることから始めるというプロセス(過程)が重要と言えます。この度の計画策定では、そのプロセスに多くの町民の皆様から参画いただきましたので、まさに町民の手作りによりまとめ上げられた計画と言っても過言ではありません。

今後は、この計画を「羅針盤」とすれば、社会情勢の大きな変化という「大海」に漕ぎ出しても「あったかいまち ゆざわ」が実現できるものと確信して止みません。

結びに、本計画の策定に当たり、ご尽力いただきました策定委員の皆様、住民福祉座談会にご参加いただいた町民の皆様、アンケート調査及びヒアリングにご協力いただきました関係者の皆様、そして事務局を務めた社会福祉協議会職員の皆様に心から謝意を表します。

令和2年3月

第2期湯沢町地域福祉活動計画策定委員会
委員長 青木 茂

～ 表紙の写真について ～

本計画の基本理念である「みんなでつくろう あったかい町 ゆざわ」の実現に向けて、子どもから高齢者まで町民全員で進めていこうという思いを込め、作成しました。

(写真)

写真上段 左より

- ・湯沢町ふれあい福祉健康フェスティバルの様子
- ・共同募金ボランティアの様子
- ・アクション農園ボランティアの様子

写真下段 左より

- ・高齢者地域間交流事業やまぶきの集いでの園児との交流の様子
- ・食生活改善推進協議会と児童クラブのクッキング事業の様子
- ・みんなでボッチャ町民交流大会の様子

湯沢町町民憲章

くわたしたちのねがいく

美しい自然につつまれた

雪のまち湯沢

きよらかな愛情あふれるまち

すこやかな活力みなぎるまち

さわやかな誰もが訪れたいまち

みんなで力をあわせ

豊かで明るく住みよい

文化の香り高い町を

つくりましょう

昭和六十年十月制定

第2期 湯沢町地域福祉活動計画

令和2年3月発行

発行：社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会

〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2877-1

TEL 025-784-4111 FAX 025-785-6661

HP <http://yuzawa-syakyo.jp/>